「ちえの輪」は知恵をだしあって活動する地域教育会議の広報紙です

ちえの輪 vol.98

2025年2月1日発行　多摩区地域教育会議広報紙編集委員会

Index

P1　語roomってなに？
P2,3　第1回、第2回 交流会報告
P4　こども文化センターを知ろう
第1回ネットワーク会議報告

語roomってなに？

今年度より“教育を語るつどい”では、皆さまが日々の生活の中で、悩んでいることやコレっておかしくない？など、誰かに話したいけど話せない事、こんな事を考えているのは自分だけかな？などを話せる場所「**語room（かたるーむ）**」を作りました。

初めての試みですので、委員会のメンバーたちも毎回手探り状態ですが、参加者が楽しく会話できて、来て良かったと思っていただけるように頑張ります。

まだまだ至らない点もあると思いますが、皆さまがちょっとおしゃべりに行こうくらいの気持ちで参加していただけたら幸いです。皆さまのご参加をお待ちしています。

第1回・第2回 語room　2024/9/27・11/29

初の「語room」は9月、2回目を11月に多摩市民館会議室で開催しました。
どちらの回も1グループ4～5人で、3グループに分かれて自由に語り合いました。
特に2回目の「語room」では、各グループともに話が盛り上がり、席替えをすることなく、あっという間に2時間が過ぎました。
育児に関すること、小学校に入学するにあたっての不安など、皆さん思い思いに語り合っていました。

参加された方々からは楽しかった、また参加したいなどの感想をいただきました。

第1回目

第2回目

【これからの語room】
今後、語roomは、皆さんが何でも話せる場所として隔月で開催できることを目指します。**予約不要、出入り自由**ですので、ぜひお気軽にお越しください。

教育に関する学習会やグループ活動の情報、ご意見など、多摩区地域教育会議あてにお寄せください

多摩区地域教育会議事務局
（多摩市民館内）
〒214-8570　多摩区登戸1775-1
TEL：044-935-3333　FAX：044－935－3398
Email：chikyou95tamaku@gmail.com

中学校区地域教育会議　情報共

交流会では**各中学校区のネットワーク作り**を支援し、**活動**
また、**地域の教育活動に関して自由に意見交換**も行います
令和6年度 第1回目、第2回目の交流会を7月、11月に開催しました

● 第1回交流会

2024／7／30

◆ 中学校の部活動について

先生方の働き方改革が進む中、部活動の在り方も問われるようになりました。
今後の部活動がどうなるのか、次のような心配な意見が聞かれました。

- 3年後から土日の部活動がなくなるという話を聞きました。土日の活動がなくなると、いずれ平日の活動も減って、最終的にはなくなってしまうのではないでしょうか？
- 部活動は「楽しいもの」として根付いており、教育活動の一環です。
  しかし、実際は先生方の多くの無償労働により成り立っています。
- 10数年前から市は部活動補助員を募集していますが、効果があるようには思えません。
- 将来的に部活動は“課外活動”になり、学校側は場所を提供するというスタンスになるのではないでしょうか。

どのように移行していくにせよ、学校ごとに状況も異なるため、現時点での考え方等を話し合う必要があります。コミュニティスクール化が進んでおり、学校運営協議会が設置されている学校が多くなっています。各中学校区では、部活動に関する考え方について議題にしてもらい、次回の交流会で各校の考え方や方向性を確認するとともに、多摩区としては川崎市の考え方を確認してみます。

→ 第2回交流会　◆中学校の部活動について 調査結果へ

◆ 地域と学校運営協議会の連携

コミュニティスクール化が進んでいく中で、学校運営協議会はまだ形になっていない学校があります。
また、小学校と中学校では、地域との関わり方にも違いがあります。
これまで学校運営協議会に出席した方から次のような意見がありました。

- 以前、学校から部活動の指導者について相談を受けたことがあり、地域の中から人材を探し、数か月間指導に当たって頂いたことがあります。
- 個人情報を理由に不登校の生徒の人数など情報をあまり出してくれません。
  送迎が必要な不登校児の付き添いボランティアなど地域でできることはありますが、セキュリティ上の問題で実現できません。
- 学校は地域に対してもっと具体的なSOSを出してほしいです。

◆ 学校、地域教育会議の予算

予算に関して、学校現場から聞こえる声や、地域教育会議での予算の使い方について、次のような意見が挙がりました。

- 先を見通して予算を立てる人材が学校にはいないため、緊急で予定にない予算を要求するのが難しいようです。
- ギガ端末の維持が大変らしいです。
- 地域教育会議の予算内で活動することが難しいです。各中学校区の予算の使い方を聞きたいです。

→ 第2回交流会
◆地域教育会議の予算についてへ

共有・意見交換会「交流会」報告

に関する情報共有、意見交換を行います。

。

た。2回の交流会を通して活発な意見交換が行われました。

● 第2回交流会

2024／11／27

◆ 中学校の部活動について 調査結果

部活動の今後について、川崎市では現在どのように考えているのか、そして学校現場ではどのような話し合いがされているのか、行政区議長会においての話と各校の調査結果を共有しました。

【地域教育推進課から教育政策室へ確認した結果】
- 今後も学校教育の一環として部活動は継続する
- 文部科学省から現状について調査依頼 ⇒ 子どもと保護者にアンケートを実施中
- 部活動の大切さは認識しているので急な変更はない

【学校へ確認した結果】
学校運営協議会で議題にできたところは1中学校区のみで、他の中学校区は校長先生から直接話を聞くなどによる調査結果です。
- 部活動指導員の地域移行がうまくいっているところ
  → “時給が高い” “大学生やリタイヤした人が多い”などが要因
- 指導員の報酬は年度単位
- 予算に枠があり、全部活に外部指導員を配置できる状況にはない
- 子どもの数が減っている地域では、そもそも部活の維持が難しい

部活動に関して急な変更はないということですが、先生の休みや、異動に伴い、顧問が見つからないといった事例があるため、地域との話し合いを続けることは重要であると感じました。
今後、制度の変更が決定してから話し合うでは遅すぎるため、各校においては学校運営協議会で議題とすること、また、行政区議長会においては、地域教育推進課から教育政策室に定期的に話し合う場を持つように提案しました。

◆ 地域教育会議の予算について

各中学校区地域教育会議の昨年度の決算報告書を提出してもらい、予算の用途、決め方、工夫点などの情報交換をしました。

中学校区の地域教育会議は規模に関わらず、同じ予算額が支給されます。
その他に、活発な活動を行うための補助として、活性化予算を請求することができます。

”教育を語るつどい“などで招く講師の報償費は、川崎市から目安が示されています。(大学教授の場合は1時間当たり1万円　など)
一般的な講演会などと比較すると安い設定となっているため、講師を探すのにも苦労しているという意見がありました。

広報紙や各事業のチラシの印刷費も中学校区によって差がありました。
自分たちでレイアウトをして印刷のみを業者に依頼する、知り合いのプロの方に格安でレイアウトを依頼する、学校に印刷を依頼してコピー用紙を現物支給するなど、要因は様々です。

予算内で活動することは大切ですが、予算の使い道に関する規定が厳しすぎるとの声も多く上がりました。また、学校規模によって、予算に差をつけるべきではないかとの意見もありました。
今後も、予算配分の考え方や、使い道に関しては行政区議長会でも議題にしていく予定です。

こども文化センターについて知ろう

令和６年度 第１回 ネットワーク会議 １１月６日

こども文化センターは、児童がすこやかに育ちゆく願いをこめて、児童の地域での遊びの拠点として、また児童の健全な育成を目指して設置されています。
川崎市内では５８館、多摩区内では７館とスカイキッズ1館があります。
その多くが「公益財団法人 かわさき市民活動センター」が運営しています。

対　象：０歳～１８歳未満
開館日：１２月２９日～１月３日を除く毎日
月～土：午前９時３０分～午後９時
日、祝：午前９時３０分～午後６時
午後６時以降の利用は中学生以上
保護者同伴であれば小学生以下も利用可能

長尾こども文化センター
成田　佳奈様

こども文化センターの業務内容

- ●遊びによる子どもの育成
- ●子どもの居場所の提供
  - ↳ 子どもが自由に来ていい場所
- ●子どもが意見を述べる場の提供
  - ↳ 子ども会議の開催
- ●配慮を必要とする子どもへの対応
- ●子育て支援の実施
  - ↳ 個人、団体、市外在住の方も利用可能
- ●ボランティア等の育成と活動支援
- ●わくわくプラザの実施と連携
- ●イベントの企画、実施
- ●地域連携
  - ↳ 地域の人材、施設の活用
  - 地域の人が必要とする地域とのつながりづくり
- ●地域における人材育成

など

地域と連携して子どもの居場所を守る

こども文化センターは、小学生以下の子どもだけでなく、中高生が勉強する場所として利用したり、家庭で寂しい思いや辛い気持ちを抱えている子どもの居場所にもなっています。

現状の課題は、地域との連携をもっと強めていくことです。特に多摩区の子どもたちは、穏やかで一見すると問題のない子が多いようですが、いざ問題が発覚した時に様々な団体と連携がとれるよう、日頃からこども文化センターを知ってもらいたいと感じています。

また、少子化が進む中で「子どものための施設」がどう残っていけるのかも課題です。徐々に、こども文化センターにも「子ども」以外をターゲットとした役割が課せられています。

地域教育会議でも、育児の悩みなどを語り合う場所としてこども文化センターを活用できないか検討していきます。